

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査

# 伊豆沼・内沼サイト

— 宮城県登米市・栗原市 —

伊豆沼・内沼は、宮城県北部に位置する淡水の堰止湖で、典型的な富栄養湖です。伊豆沼は、湖面積3.69km<sup>2</sup>、最大水深1.6m、平均水深0.8m、内沼は、湖面積1.22km<sup>2</sup>、最大水深1.6m、平均水深0.8mの湖です。

かつては多様な水生植物が豊富に生育する湖沼でしたが、近年、水質汚濁などの影響により、水生植物が激減しており、その保全に関する研究や活動が行われています。



調査地の景観  
ハスが湖面を広く覆っていました



ヒメシロアサザ  
絶滅危惧II類（環境省第5次レッドリスト）

## 2025年度の調査結果概要

伊豆沼・内沼サイトでは、2015年度より調査を開始し、今年度は3回目となる調査を9月9～10日に行いました。

今年度調査では、過年度（2015年度と2020年度）調査よりも多い36種の水生植物が記録されましたが、過年度調査と同様、ハスが湖面の広い範囲を覆う様子が見られました。また、オコビシの分布が拡大していました。

定量調査を実施した10地点では、6種の水生植物が確認されました。そのうちオコビシは全地点で確認され、次いでハスが3地点で確認されました。一方で、前回（2020年度）調査では複数の地点で記録されていたガガブタは確認されませんでした。また、補完調査では、過年度（2015年度と2020年度）の調査では確認されていないヒメシロアサザ、コツブヌマハリイ、オオミクリ等の希少な水生植物が確認された一方で、外来種のキシウブも確認されました。

### 【調査者・調査協力者】

藤本泰文・速水裕樹（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）、  
青木美鈴（日本国際湿地保全連合）



コツブヌマハリイ  
絶滅危惧II類（環境省第5次省レッドリスト）



アサザ  
準絶滅危惧（環境省第5次レッドリスト）



湖面に広がるオコビシ



キシウブ（重点対策外来種）

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査  
くびきこしょうぐん

# 頸城湖沼群サイト

—新潟県上越市—

頸城湖沼群は、7つの湖沼が連なる中頸城地方の湖沼であり、このうち4湖沼（長峰池、坂田池、鶉ノ池、天ヶ池）で水生植物を対象としたモニタリング調査を実施しています。各湖沼は過去の古砂丘の起伏に起因した様々な湖岸形状が見られるため、多様な環境が形成され、様々な水生植物が見られる他、希少な種も数多く報告されています。



景観（長峰池）



園芸スイレン（重点対策外来種）  
前回（2021年度）調査よりも群落が拡大していました（長峰池）

## 2025年度の調査結果概要

頸城湖沼群サイトでは、2015年度より調査を開始し、今年度は3回目となる調査を8月23～25日に行いました。

定量調査（長峰池24地点、天ヶ池4地点）では、15種の水生植物が記録されました。そのうち長峰池では、オオトリゲモが最多の20地点、次いでイヌタヌキモが13地点で確認されました。一方で、前回（2021年度）調査では複数地点で見られたクロモは記録されませんでした。また、天ヶ池ではガガブタのみが3地点で確認されました。4湖沼で実施した補完調査では、ウキヤガラ、コウホネ、ヒメガマ等が複数湖沼で確認されました。

今年度調査では、約50種の水生植物が確認され、希少な種であるササエビモ、ツツイトモ、車軸藻類等も確認されました。また、前回調査同様、外来種の園芸スイレンの群落も確認され、その分布は更に拡大しているようでした。園芸スイレンは繁殖能力が高く、今後、在来種の生育分布範囲への拡大が懸念されます。

### 【調査者・調査協力者】

志賀 隆・加藤 将・三浦克人・大瀧竜也・尾形 灯（新潟大学）、  
青木美鈴・朴 恵真（日本国際湿地保全連合）



タチモ



調査風景



イヌタヌキモ  
水面下には群落、水面には黄色の花（矢印）も多数見られました



ヒシ（左）とオニビシ（右）

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査

# しんじこ 宍道湖サイト

— 島根県松江市、出雲市 —

宍道湖は、一級河川斐伊川の下流部に位置する面積80.92km<sup>2</sup>、最大水深6.4m、平均水深4.2mの汽水の湖です。中海を通して日本海につながり、海水の10分の1程度の塩分濃度となっています。宍道湖では、水生植物の分布域が2009年頃から突発的に拡大し、植物プランクトンが優占する湖沼から水生植物が優占する湖沼へとレジームシフト（生態系の急激な変化）が起こった可能性が指摘されており、モニタリングしていく価値が高い湖沼です。



オオササエビモ



オオササエビモの花穂

## 2025年度の調査結果概要

宍道湖サイトでは、2015年度より調査を開始し、今年度は3回目となる調査を9月18～19日に行いました。

定量調査を実施した33地点では、18地点において4種（ツツイトモ、マツモ、オオササエビモ、リュウヒゲモ）の水生植物が確認されました。ただし、33地点中15地点では水生植物を確認できませんでした。また、補完調査では、過年度（2015年度と2021年度）の調査で確認されなかったイトトリゲモやセキショウモ等が確認できました。

今年度調査では、希少な種を含む26種の水生植物が確認されました。特に前回（2021年度）の調査では1か所のみで確認であった特定外来種のナガエツルノゲイトウが3か所で確認され、湖内における分布が拡大している可能性が示唆されました。

### 【調査者・調査協力者】

國井秀伸（島根大学）、辻井要介（みなもかん）、加藤 将（新潟大学）、青木美鈴・上野綾子（日本国際湿地保全連合）



セキショウモ



調査では水中に生育する水生植物を採集器にて回収します



採集した水生植物を種類別に分けて記録します



特定外来種に指定されているナガエツルノゲイトウ  
今年度調査にて新たに2か所で確認されました